

(資料9) 厚生労働省「平成10年度 喫煙と健康問題に関する実態調査」 結果の概要(抄)及びたばこ依存症スクリーニングテストの質問表

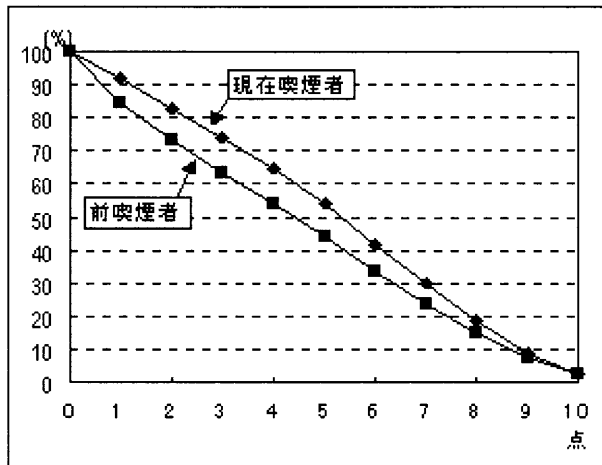
8. たばこ依存症判定

たばこ依存症判定のための得点の分布では、現在喫煙者・前喫煙者別で比較した場合、現在喫煙者は、前喫煙者(喫煙していた当時)よりも得点の高い者の割合が大きく、また、習慣的に喫煙を始めた年齢が若いほど得点の高い者の割合が大きくなっている。

この結果から、現在喫煙者の53.9%がたばこ依存症、すなわち15歳以上の国民全体では、1,800万人がWHO国際傷害疾病分類によるたばこ依存症であることが推計される。(たばこ依存症の判定基準を得点が5点以上とした場合)

(図8-1及び図8-2:略)

図8-3 たばこ依存症判定(2)
(現在喫煙者・前喫煙者別)



(図8-4 略)

図の見方:

図8-3及び8-4は、得点がn点以上の人の割合を表したもので、例えば、たばこ依存症度が5点以上の者の割合は、現在喫煙者では55%程度、前喫煙者(が喫煙していたころ)では45%程度であることがわかる。

(参考2)

たばこ依存症スクリーニング質問表

1. たばこを吸い始めたときに考えていたよりも、多くのたばこを吸うようになっていませんか？
2. 禁煙したり減らそうとして、できないことはありましたか？
3. 禁煙したり減らそうとしたときに、たばこが欲しくてたまらなくなることがありましたか？
4. 禁煙したり減らそうとしたときに、次のどれかがありましたか？
(イライラ、神経質になる、落ち着かない、集中しにくい、ゆううつになる、不安になる、眠れない、胃がむかつく、頭が痛い、脈が遅くなる、手がふるえる、疲れやすく力がはいらない、食欲が増した・体重がふえた、せきがつづく、口の中がヒリヒリ痛い)
5. 上のことをなくすために、また、吸い始めたことがありましたか？
6. 重い病気にかかり、たばこがその病気によくないとわかっているのに、たばこを吸い続けたことがありましたか？
7. たばこによって、せきや息ぎれなどの健康上の問題が起きたことがわかった後でも、たばこを吸い続けたことがありましたか？
8. たばこによって、イライラしたり神経質になるなどの精神的な問題が起きることがわかった後でも、たばこを吸い続けたことがありましたか？
9. 自分は、たばこなしでいられなくなっていると感じることがありましたか？
10. たばこが吸えないような仕事やつきあいをさけることが、何度かありましたか？

「はい」=1点、「いいえ」=0点

- ・ ICD-10たばこ依存症のスクリーニングに有用であることが、岐阜大学医学部の研究により明らかになっている。